令和７年度
第２回 和歌山県立たちばな支援学校　学校運営協議会

令和７年１１月１０日(月)　　午前１０時～１１時３０分

出席者：委員７名　傍聴人５名

議　　題

1　本年度の各学部の取組について
2　情報発信について
3　協議「地域に根ざした学校づくり」
4　意見交換

協議した内容

1　本年度の各学部の取組について

学校経営方針の４つの重点目標のひとつ「地域に根ざした学校づくり」に向けた取組

（各学部主事より報告）

（１）　小学部

校外学習や行事（６年間の系統）、居住地校交流、地域学習、ゲストティーチャーの活用など

（２）　中学部

学校間交流（耐久中学校、津木中学校）、職業体験、理科社会校外学習、防災学習、広川苑との交流、ゲストティーチャーの活用など

（３）　高等部

ゲストティーチャー（作業学習新商品開発に向けて）、特別講座、スポーツクラブの交流（日高高校中津分校）、有田中央高校と自立活動授業交流、作業製品販売会など

2　情報発信について

（教頭より取組状況の報告）

運営委員会で「地域に根ざした学校づくり」の現状と課題を協議し、それを元に今年度は「発信」に力を入れていくことにした。

（委員より）

・広川町に限定せず、日高圏域も含め校区内にひろげて発信していくことが大切である。
・学校関係者だけでなく、一般の人の目に入る媒体は何か、といった視点で考えていく。
・「たちばな応援団」のポスターなどを貼ってもらう。
・FM マザーシップなどに相談してみるなどこれまで関係を作ってきたところに相談してみる。
・インスタグラムでは、作業製品の工程が分かるような動画を載せてはどうか？

３　協議「地域に根ざした学校づくり」

（１）今年度の新たな取り組みついて（広川苑との交流）

中学部生徒に音楽の発表をしてもらい、広川苑の利用者さんは、「またあるのか」など非常に楽しみにしている。次回１２月に高等部生徒の音楽発表も楽しみにしている。“ライブ”というネーミングが良い。本校の生徒にとってもよい経験であり、ぜひ継続していきたい。

（２）高等部の取組について

特に２学期は、イベントがたくさんあることが分かった。大変かとは思うが、これから社会に出て行くにあたって、生徒自身がアイデアを出して作り上げているところがすごいと感じた。生徒は、携帯やタブレットを活用し、様々な情報を仕入れている。

（３）性教育について

デートDVについて外部講師による授業をしていると報告があったが、施設や事業所では、職員から性の話をするのが大変な現状である。学校段階で、性について勉強する機会を設定してくれるのは必要なことだと感じる。

（４）地域での活動について

〇各学部の報告から、非常に多くの取組をしていることが分かった。よいことではあると思うが、一方で通常の授業の体制はどうしているのか。

→小学部の居住地校交流では、夏休みの終わりに設定するなどの工夫をしている。

〇支援学校の生徒は体験することが大事で、生徒にとってはよいことではあるが、働き方改革の視点から教員の不満等出ていないか。

→授業の一環として設定している。児童生徒にとって、社会参加やコミュニケーションのために必要な活動として、各学部で位置づけを明確にしながら取り組んでいる。

（５）自主通学について

将来を見据えて自主通学はよいことである。

４　意見交換

・たちばな応援団の登録者を増やしていく取組について

学校としてどういう人を必要としているのか、それをもとに紹介できれば授業の充実につながる。